

Staron®は優れた補修性があります。

以下の手順を参考にし、Staron®補修を行ってください。

1. クラック補修

✓ 原因

直接的に過度の外力や衝撃力、熱影響などによるものと間接的に仕上げ状態や微細ノッチ有無によるものが考えられます。

✓ 補修方法

サンドペーパーでは状況できないクラック、擦り傷、カケなどは「2.」の方法にて補修することができます。

2. 大きなカケの補修

- ①欠けたものを捨てず、そのまま確保します。
- ②損傷部分と欠け落ちたものと形状が合うのかを確認します。
※形状に異なる場合は使えないケースがあるので、その場合は「2. トモ材を用いた埋込法」の補修内容を参照してください。
- ③形状に問題なければStaron®専用接着剤で接着すると同時に損傷部分と欠け落ちたものを密着させます。
- ④接着剤の硬化を確かめてから、仕上げます。

3. トモ材を用いた埋込法

- ① 損傷部分の形状に合わせ該当部分を取り除きます。
- ② 損傷部分と同様色のStaron®端材を使い、トモ材を作ります。
※トモ材制作は、通常切り抜いた損傷部分の大きさより1.5mm大きくしてください。
- ③ 制作したトモ材が損傷部分にぴったりフィットするかを確認します。
※トモ材がぴったりフィットしない場合は、トモ材の再制作をしてください。
- ④ 切り取った損傷部分の裏側にアルミテープを貼ります。その後、Staron®専用接着剤を注入し、トモ材を埋め込みます。
※専用接着剤を注入し、トモ材を埋め込んだ際、トモ材の全周に接着剤が溢れ出していることを確認してください。
- ⑤ 接着剤が硬化したら接着材の部分とトモ材のはみ出ている部分をベルトサンダーやトリマーで削り落とします。
- ⑥ 削り落とした後は通常の方法で仕上げます。

4. ご注意

- ✓ Staron®は汚れが染み込みにくい素材ですが、色・柄によりメンテナンス方法に若干の違いがあります。
- ✓ 熱いフライパンや鍋の直置きはしないようにしてください（置く場合は、鍋敷きをご使用ください）。
- ✓ 艶だし加工を施した仕上げ面には、さらに#800のサンドペーパーとコンパウンドで磨きを加えながら、まわりと仕上げを合わせてください。
工場での仕上りと同じになりにくく、微妙な艶の違いが生じます。従ってできるだけ広い範囲で仕上げるか、全面を均一に仕上げるのが最良です。
- ✓ 「ソコフ」などのこげ落とし専用クリーナーはStaron®の表面を傷めますので、絶対に使用しないでください。